



## 5：研修受講までの流れ

- (1) 当社指定の申込用紙に必要事項を記入の上、期日までに申し込む。ただし、定員に達した時点で申込受付は終了する。
- (2) 当社は書類審査の上、受講者を決定し受講決定通知書を受講者あてに通知する。
- (3) 受講決定通知書を受取った受講者は、指定の期日までに受講料等を納入する。
- (4) 当社は受講料等の納入を確認した後、教材を郵送する。

## 6：費用

受講料 40,000 円 テキスト代 4,500 円 合計 44,500 円

## 7：留意事項

研修事業の実施に当たり、次のとおり必要な措置を講じることとする。

- (1) 研修の受講に際して、受講申込受付時に本人確認を行う。  
確認の方法は、以下の公的証明書の提出等により行うものとし、本人確認が出来ない場合は、受講の拒否又は修了の認定を行わないものとする。
  - ①戸籍謄本、戸籍抄本若しくは住民票の提出
  - ②住民基本台帳カードの提示
  - ③在留カード等の提示
  - ④健康保険証の提示
  - ⑤運転免許証の提示
  - ⑥パスポートの提示
  - ⑦年金手帳の提示
  - ⑧国家資格等を有する者については免許証又は登録証の提示 等
- (2) 研修に関して下記の苦情等の窓口を設けて研修実施部署と連携し、苦情及び事故が生じた場合には迅速に対応する。  
苦情部署対応：介護職員養成係受講生担当窓口 電話 03-5642-2361
- (3) 事業実施により知り得た受講者等の個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的にしようとする  
ことのないよう受講生の指導を行う。

## 8：科目別シラバス

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学・通信）	事業者名：株式会社コーチング・スタッフ
------------------------------	---------------------

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画			
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数		実施内容	
1	職務の理解 6時間	1	職務の理解 6時間	1	職務の理解
	(1)多様なサービスの理解	(1)	同左 3	(1)	要支援で独居の利用者に対し、どのようなサービスを提供できるかグループで検討し、発表する。
	(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	(2)	同左 3	(2)	講義のみ
2	介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2	介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2	介護における尊厳の保持・自立支援
	(1)人権と尊厳を支える介護	(1)	同左 4	(1)	通信講習のみ
	(2)自立に向けた介護	(2)	同左 5	(2)	片麻痺の利用者の残存機能を効果的に活用するための必要な介護方法についてグループで話し合い、発表する。通信講習も行う。
3	介護の基本 6時間	3	介護の基本 6時間	3	介護の基本
	(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携	(1)	同左 1	(1)	通信講習のみ
	(2)介護職の職業倫理	(2)	同左 3	(2)	介護職を行う上での倫理観についてグループに分かれ検討し、発表する。
	(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	(3)	同左 1	(3)	通信講習のみ
	(4)介護職の安全	(4)	同左 1	(4)	通信講習のみ
4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携
	(1)介護保険制度	(1)	同左 3	(1)	通信講習のみ
	(2)障害福祉制度及びその他制度	(2)	同左 4	(2)	通信講習のみ
	(3)医療との連携とリハビリテーション	(3)	同左 2	(3)	リハビリテーションの意義を理解し、脳梗塞患者や足の骨折患者のリハビリテーション技術演習（骨折後の歩行リハビリテーション）を行う。
5	介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5	介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5	介護におけるコミュニケーション技術
	(1)介護におけるコミュニケーション	(1)	同左 3	(1)	通信講習のみ
	(2)介護におけるチームのコミュニケーション	(2)	同左 3	(2)	共感や受容、傾聴的態度をお互いに理解しあうため利用者役と介護者役に分かれて、2人組でロールプレイングによるコミュニケーション技術を体験する。
6	老化の理解 6時間	6	老化の理解 6時間	6	老化の理解
	(1)老化に伴うこととからだの変化と日常	(1)	同左 3	(1)	老化現象を理解するために、視覚の低下や聴力の低下の疑似体験を行う。
	(2)高齢者と健康	(2)	同左 3	(2)	通信講習のみ
7	認知症の理解 6時間	7	認知症の理解 6時間	7	認知症の理解
	(1)認知症を取り巻く状況	(1)	同左 2	(1)	通信講習のみ
	(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2)	同左 1	(2)	通信講習のみ
	(3)認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	(3)	同左 2	(3)	アルツハイマー認知症の利用者役と介助者に分かれ、傾聴や受容のロールプレイングを行う。
	(4)家族への支援	(4)	同左 1	(4)	講義のみ

8	障害の理解	3時間	8	障害の理解	3時間	8	障害の理解
	(1) 障害の基礎的理解			(1) 同左	0.5		(1) 通信講習のみ
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識			(2) 同左	0.5		(2) 通信講習のみ
	(3) 家族の心理、かかわり支援の理解			(3) 同左	2		(3) 複数の具体的な事例を示し、障害者がいる家族の気持ちについてグループで検討し、発表する。
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	75時間	9	こころとからだのしくみと生活支援技術	75時間	9	こころとからだのしくみと生活支援技術
	ア 基本知識の学習	10～13時間		ア 基本知識の学習	10時間		ア 基本知識の学習
	(1) 介護の基本的な考え方			(1) 同左	3		(1) 講義のみ
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解			(2) 同左	3		(2) 複数の具体的な事例を示し、介護を受ける側のこころの変化についてグループで検討し発表する。
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解			(3) 同左	4		(3) 高齢者疑似体験を行い、自分の動きとどこが違うかグループで検討し、発表する。
	イ 生活支援技術の講義・演習	50～55時間		イ 生活支援技術の講義・演習	53時間		イ 生活支援技術の講義・演習
	(4) 生活と家事			(4) 同左	6		(4) 講義のみ
	(5) 快適な居住環境整備と介護			(5) 同左	6		(5) 講義のみ
	(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			(6) 同左	6		(6) 利用者役と介護者役にわかれて、衣服の着脱の実技演習を行う。通信講習も行う。
	(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			(7) 同左	6		(7) 利用者役と介護者役にわかれ、移乗介助の実技演習を行い、お互いに介助法について指摘しあう。通信講習も行う。
	(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			(8) 同左	6		(8) 利用者役と介護者役にわかれて、食事介助の実技演習を行い、問題点を指摘しあう。通信講習も行う。
	(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			(9) 同左	6		(9) 利用者役と介護者役にわかれ、清拭の実技演習を行い、配慮や声かけについて検討する。通信講習も行う。
	(10) 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			(10) 同左	6		(10) 複数の具体的な事例を示し、排泄に関するオムツの交換等の実技演習を行い、こころのケアについて、グループで検討し、発表する。
	(11) 睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			(11) 同左	6		(11) 振動や騒音により、睡眠が妨げられることを知るために、実際に環境を作り、実技演習を行う。
	(12) 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護			(12) 同左	5		(12) グループに分かれ、死にゆく人へのケアについて検討し、発表する。
	(実習) <sup>※</sup> (50～55時間中12時間以内)			(実習) <sup>※</sup> 時間			(実習) <sup>※</sup>
	介護実習	○時間					
	ホームヘルプサービス同行訪問	○時間					
	在宅サービス提供現場見学	○時間					
	ウ 生活支援技術演習	10～12時間		ウ 生活支援技術演習	12時間		ウ 生活支援技術演習
	(13) 介護過程の基礎的理解			(13) 同左	6		(13) 要介護3の自宅介護の利用者・家族に対し、グループで検討し、介護を行ううえで必要なサービスについて発表する。
	(14) 総合生活支援技術演習			(14) 同左	6		(14) 一連の生活支援技術について実技演習を行う。
10	振り返り	4時間	10	振り返り	4時間	10	振り返り
	(1) 振り返り			(1) 同左	2		(1) 移動介助や入浴介助の介護技術演習の復習を行う。
	(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修			(2) 同左	2		(2) 講義のみ
	追加カリキュラム						
	計 (130時間)			計 (130時間)			

※「9こころとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。

## 9：通信講習の科目及び時間

2の研修スケジュールで示した通り。

## 10：指導体制・指導方法

通信による実施方法は以下の通りとする。

### (1) 学習方法

添削課題を提出期限までに提出することとする。ただし、合格点に達しない場合は、合格点に達するまで再提出を求める。

### (2) 評価の方法

添削課題については、課題の理解度及び記述の的確性・理論性に応じて、担当講師が A、B、C、D の評価を行うこととする。評価 C 以上を合格とする。

A=90 点以上 B=80～89 点 C=70～79 点 D=70 点未満

### (3) 個人学習への対応方法

受講生の質問に対しては、FAX (03-5642-2161) により受付け、必要に応じて担当講師に照会する。

## 11：修了評価の方法、評価者、再履修等の基準

修了の認定は、第9条に定める全てのカリキュラムを全て履修し、次の修了評価を行った上、修了認定会議において基準に達したと認められた者に対して行う。

(1) 修了評価は、担当講師が科目ごとに行い、その評価をまとめて項目全体の評価を行う。

(2) 修了評価は、筆記試験により行う。ただし、介護に必要な基礎的知識の理解度及び生活支援技術の習得状況の評価については、併せて実技試験も行う。

(3) 認定基準は、次のとおり理解度の高い順に A、B、C、D の4区分で評価した上で、C以上の評価の受講者が評価基準を満たしたものと認定する。評価基準に達しない場合には、必要に応じて補講等を行い、基準に達するまで再評価を行う。

認定基準 (100 点を満点とする)

A=90 点以上 B=80～89 点 C=70～79 点 D=70 点未満

## 12：過去の研修実施回数

25年度～31年度 各年度1回 計7回実施

## 13：研修修了者数

25年度 25名 26年度 24名 27年度 33名 28年度 26名 29年度 33名

30年度 43名 31年度 36名

## 14：申し込み・資料請求先

聖進学院 03-5642-2361

## 15：事業所・法人の苦情対応者名

苦情部署対応：介護職員養成係受講生担当窓口 電話 03-5642-2361 担当：中島